



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/15 (月)	+ 400	+ 6,800	+ 7,200	国庫短期証券発行・償還(3M)	CP等買入 ▲ 800		日: GDP (3Q) 鉱工業生産 (9月)
11/16 (火)	トン	+ 3,000	+ 3,000			CP等買入 + 5,000	1-0圏: GDP (3Q)
11/17 (水)	▲ 1,000	▲ 29,000	▲ 30,000	国債発行 (5年)			日: 貿易収支 (10月)
11/18 (木)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				1-0圏: CPI (10月)
11/19 (金)	▲ 1,000	▲ 9,000	▲ 10,000	国債発行 (20年)			日: 全国CPI (10月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初537兆7,300億円から始まった。10日の国庫短期証券及び30年利付国債の発行により、536兆4,500億円まで減少したが、11日には国債買入オペにより537兆8,500億円まで増加した。その後537兆9,900億円まで越週した。

無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.045%から始まった。

積み終盤に差し掛かり、地銀業態の一部が資金調達量を抑えたことにより、週を通じて△0.051%~△0.047%と前週と比べて低位で推移した。週末は、証券業態中心に積極的な調達が見られたことで前営業日対比レートが上昇、△0.038%で越週した。

ターム物は放出・調達サイドともに調整ニーズが減退し閑散としていたが、△0.035~△0.001%での引き合いが見られた。

来週の主な予定は、国内では15日にGDP (3Q) の公表、19日に全国CPI (10月) の公表、海外では16日にユーロ圏GDP (3Q) の公表、17日にユーロ圏CPI (10月) の公表などが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.080 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.070 ~ 0.000

<レポ>

新しい積み期間に入った今週の足許GC取引は、週初△0.095%近辺の出会いから始まった。その後週中にかけてやや上昇し△0.09%~△0.085%近辺の出会いで推移。積み期間最終日となる週末12日の取引においても大きく崩れることなく、△0.09%近辺の出会いで越週した。SC取引では2年410~429回債、5年137~149回債、10年333~364回債、20年163~178回債、30年69~72回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約8,500億円で、週間償還額 (約7,500億円) を上回った。発行市場は、電気機器や輸送用機器等の複数の銘柄で大型の発行が行われ活況となった。先週末の市場残高は24兆4,707億円であったが、11月11日時点では24兆7,020億円と増加した。発行レートは、一部の期越え銘柄等で、深いマイナスでの約定が見られる等、△0.07%台~0.000%での出会いとなった。11日に、CP買入オペが予定通り5,000億円でオファーされた。結果は案分レート△0.015%・平均落札レート△0.013%となり前日比 (案分レート△0.015%・平均落札レート△0.012%) で概ね横ばいの結果となった。発行頻度の多い銘柄や発行量の多い銘柄等の売却ニーズが一定程度あったものと推測される。

来週の週間償還額は、約4,000億円となっている。発行市場は、償還と同程度の発行を予想する。発行レートは、ディーラーのコロナオペ担保目的等の引き受け需要が強く、期越え銘柄や希少銘柄等はマイナスレートを中心とした出会いを予想する。

<TDB>

11月9日の3M1036回債(2022年5月10日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1128% (前回債△0.1062%)、平均落札利回り△0.1168% (前回債△0.1062%) となり、11月12日の3M1037回債(2022年2月21日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1210% (前回債△0.1172%)、平均落札利回り△0.1239% (前回債△0.1213%) となった。来週は11月17日に1Y、11月19日に3Mの入札がある